常磐毎日新聞
日刊
十二月十六日夕刊
定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 （振替口座）東京 四〇二一〇番

天氣豫報

今晩は北の風雨
明日は北の風晴たり曇たり

平小鐵道の言論に…
市會の明朗性問題化
川崎、大嶺兩議員渡り合ふ
威信に關すとて議場緊張

平市會は昨十五日午後二時から開會、劈頭川崎議員は議事進行に關する問題ありとて起立

還般の縣會選擧に際し大嶺議員は演說會に於て平小鐵道問題を論議され『片落廻りに反對するものは炭礦と白紙還元一派である』と述べられたさうであるが如何なる事實を捉へて拘る言を吐かれるか、また此の事に關聯し何等か市會に暗影あるが如き言辭を吐露せる處信を質ねたい、是れは市會威信に關する問題であり斯かる言動を明白化せずんば市會の明朗性を傷ける事ともなり、引いては議員の本然的使命を果す事が出來なくなるから此の點を大嶺議員に質ねて今後の議事に當りたいと述べ議場緊張、大嶺議員は口を緘して答へない爲め川崎議員は

市會に於ては何等の處信を述べる事情を知らない大衆の面前でのみ拳を揮つて大言壯語して市民に疑惑を抱かしむるが如きは果して君の信ずる市會明朗化の所業と云ふべきを得るや

と迫つたに對し大嶺議員は『議員として爲したるにあらざる言動に責任を持てぬ』と云ふが如き答辭を爲したので川崎議員は『二重人格』に食ひ下つて追求質した焦點に觸れて答へないならば自己辯明を爲さねばならぬと白紙還元の動議提出するに至つた經緯を詳細に述べ約一時間に亘つて平小鐵道敷設の政府一任を力說議事に入り追加更正、市有地處分、市參事會事項議決報告を何れも可決、荻原議員起立

地下探堀も物議

地下探堀の問題は知事より諮問あつたと聞くが何んが故に是れを上提しないかと質し青沼市長は重大な問題であるから適當な機會に上提する心組みで保留して置いたと答へたので川崎、山野邊兩議員と市長との間に論戰あつて午後四時十分散會した

兎二百羽を軍部へ

内郷村字内町の馬目太平治氏は地方における獵天狗として知られてゐるが今年も十一月一日の解禁以來既、雉、山鳥等百羽を得獵同村銃後奉公會に寄附したほか兎二百羽を軍部に納入した

拾得金をめぐつて
師走の街頭に
醸し出された美談

師走も間近い昨今これまた聞くも床しい奇特美談
——四倉町蛭川櫻崎辰次郎氏（六八）は十二日午後七時頃湯本町からの歸途同驛待合室で便所に行つた際金三百圓を紛失、青くなつて駐在所に屆出でたが、同時刻列車を待合せてゐた植田町綠屋事牧野進三氏が拾得し驛員に屆出でゝあつたので櫻崎氏は禮金として金五十圓を差出したところ牧野氏はこれを固辭して受取らぬため更に十三日わざ〳〵植田町に同氏を訪ひ差出したがどうしても受取らぬので櫻崎さんは同氏が植田町在鄕軍人分會長である處から同分會に右の五十圓を寄附、牧野氏の篤行は町の話題を賑はしてゐる

ダイ窃取犯人
遂に平署へ御用
不眠の搜索陣に凱歌
不敵工學士を裝ふ

非常時局下大膽にも火藥庫を破りダイナマイト及び雷管、導火線等多數を窃取地方炭礦界を戰慄せしめた稀代の犯人が遂に檢擧された——平署では去る八月二十五日夜內鄕村壽炭礦の火藥庫三棟を破つて押入りダイナマイト、雷管、導火線等を窃取したのを始め各炭礦を荒した犯人の行方に關し其後本部の應援を求め一方管內の警官を總動員し不眠不休の活動を續けてゐたが最近東京市芝浦製作所技師吉田時夫の名刺を振廻し炭礦地帶を徘徊してゐる怪人物あるを探知、鋭意搜索中のところ十二日夜午後九時頃湯本町湯本座で美人を引連れ悠々と芝居見物をしてゐるところを發見井上、根本兩巡查が格鬪の末逮捕取調べの結果

芝浦製作所技師とは出鱈目で栃木縣那須郡湯本村生れ目下住居不定殺人、強盜並に窃盜前科九犯を有する強かもの室井熊二郎（四五）といひ前記犯行の外赤井村驛前增田屋商店に押入り洋品類や百余圓在中の手提金庫、水戶間の列車內で乘客のポケットから數百圓を拔取つたこと等判明した

犯人は
情婦殺しの前科者

（別項）四ケ月振で平署に檢擧されたダイナマイト窃取犯人室井熊二郎は目的其他は口をかんして語らないが

同人は茨城縣礒原在の炭礦で育ち十七才の時同僚を殺したのをはじめとし中年には赤井村某炭礦で情婦にダイナマイトを投げ付け爆殺した外次々と罪を犯し最近宮城刑務所を出所した許りの男だけに餘罪多數あるらしく目下嚴重追究中である

西部女青
映畫の夕

平市西部青年團女子部では二十一日午後六時から世界館で出征遺家族慰問資金造成映畫會を開くプログラムは時代劇〃小柳懇望〃現代劇〃若き日の凱歌〃同〃歌へ歡呼の聲〃等である

大陸を旅して （二三）
篠山廉

北京市內の漫步

日本內地の狹い天地にのみ蟄居して居る吾人が初めて見る外國市の狀況を何んの彼のと批評がましい事を言ふのは不遜この上もない事は承知して居るが、見たまゝの管見を以下述べて見やう。

先きに中支南支の一端を覗き今回滿洲からこの地に來たが、北京ほど興味津々たる大都市はないやうだ先づ、物價の安いこと殆んど法外もない試に支那商人店頭に立つて見ると內地で、皮革、織物の統制で純物が得られないといふ今日、何でも山と積まれてある、のみならず其價と來たら誰れにも信じられない程、安い、ボックスの上等の長靴が十五圓、短靴が八圓、革ゲートルが三圓、牛毛テーブル布 圓五十錢これは實際買つた値段だ、彼樣に安價だが必要以上の量に買ふと稅關が矢釜しいので買ふことが出來ないのが殘念だがしかたない次に勞銀の低廉なのにも驚くし、一里も乘つた人力車に二十錢ですむ、二人乘の馬車に四人も乘つて一人宛五錢も出せば一里も二里も飛して行く、次に家庭の問題だが、正妻の外に幾人かの側室を持つて居る一夫多妻を認められて居る社會だから何とも感じて居ないが多數の夫人間に面倒な悶着が起るかと思へば、大低は、無事平穩圓滿、家の構造も面白い大抵、正面が夫婦の室其左右の側に第二以下の側室がある、但し第二夫人以下を迎ふるには正妻のお眼鏡に叶つたものでなくて採用されぬさうだ、兎に角永い習慣であるにせよ、困つたものだ、次は子女の事だが誰れも、黃金にも玉にも換へ難き愛を寄すべき、產みの子を、賣買するものがあり、又若か死にすれば葬式どころか野に捨て野犬に弄ぶに任かせ親に先立つ不孝の罪を戒しむのみならず次の子の命を誘ひ奪ふ魔なりと信ずるものがあり馬鹿げた事だが本當なのだ、次は糞便を市の街路にたれ放しにすることだ。乾期に黃塵萬丈の塵の中には糞粉まで飛んで舞ふと思ふ、マスクなど放すことなど出來るものでない、尙ほ偶々共同便所があるが、扉が無いばかりか中間のしきりが低く男女混用しかも、しやがんで胸からゆつくり世間話をしながらお隣り同志、ゆつくり世間話をやりながらやらかすといふ、珍景實は星校長が一行を特に案內して見せてくれた實景だ。

こんな裡面があるかと思ふと市內到る處に莊嚴雄大を極めた建築美を發見することが出來る、若しそれ皇后の莊麗と建築美の偉人性に至つては筆紙の及ぶところにあらざるのみならず何なる遠觀名文の士といへどもこの片鱗をも描寫し能はざることは、さすがに工學の大斗伊東忠太博士もさへ其著述に漏して居る所である、郊外の萬壽山、玉泉山、登芙は先にも書いたが紫禁城の壯麗、和殿の綺維、天壇の豪に至りてはこれを見ぬ人に說明する適當な言葉がない、何疊敷もあるかと思ふ、乳白色の巨大な大理石を、ふんだんに使用し寶鼎銅瓶、白圭、嘉量の珍寶は勿論、古銅、寶石、陶磁の逸品を今に現存して昔の榮華を今は夢の如くかたつて居る。

小名濱支局通信

吾二萬町氏の
緊褌一番の秋
支局長 小野務平

小名濱町は昭和三年國會に於て小名濱商港、並に平小鐵道、の修築及建設の通過を見るに至り商港は翌四年度より鐵道は同五年度より着工の運びとなり商港は四年五月起工を見たそして當時の町民の意氣は實に有頂天に無限の喜びを讃へ前途を祝福した事は未だ腦裏より取り去られない吉祥事であつた事を追憶するものであるが其後時代の變遷は目間苦しく七轉八倒の苦惱を重ね昨年辛ふじて第一期工事の完成と云ふ事で築港の型をつけたのである

一方平小鐵道は片々迂廻、湯本廻りなどの路線競爭者現はれ遂に相剋相繼いて止まる處さく遂に實現を危まるゝに至り實現不可能と見らるゝに至つたと云ふ始末に惱まされてあるのであるが、之を初りかげに商港は第一期工事のみでは其機能全くなく却つて累を漁港にまで及ぼし數回に亘る時化の爲めに埠頭並びに岸壁は崩壞に崩壞を加へ殆ど慘憺たる殘骸を見るの悲しなべき狀態と化し去らんとして居る

於此町當局は縣當局と協力をなし第二期工事の速成運動を起して其機能回復に勉めたのであるが事變關係から物資の供給圓滿を欠く理由の許に數次に亘る內務、大藏の折衝は遂に容認する處とならず本月初めに於て最後の切札に依り明年度豫算より削除せるゝに至つた

これ國家の大局から見て相當であるかも知れぬが無くては小名濱町としては却つて福を捨てゝ禍を招くに均しき被目に陷つたものと云ふべきで痛嘆措く能はざるものである、平小鐵道も非實現あり商港第二工事費、削除に遇ふだけでも本町の打擊は決して尠少でないのであるに茲に亦第二小學校の倒壞に遇ふに至つては如何に好事魔、魅了されたかを恐ろしく思ふのである

之を一家に譬ふれば不幸相繼いで更に大なる不幸に際會して出る、這入るも災禍踵を接し來たる浮目を見るに均しきを思はしむるもので有るがこの多難多艱に際して如何に二萬町民は處すべきであるが注意を拂ふ必要がある

記者は唯此協合橫は問題の前後に犀利の眼を見張り禍を轉じて福たらしむるかの新工夫を考察するの必要を痛感するものである、そして除ろに進んで取るべき道をたどるの準備をなすにある事を大いに悟る必要があると思ふ徒らに災難の大なるに周章狼狽して前後の措置を誤るが如きは小者に於て進んで策であつてよろしく高所大所より觀察して本町將來の爲めに百年の大計を樹立する事に適進する事を殊に此の多難に際して二萬町民に緊褌の要を切望する一人である

（完）

國辱病一掃の構へ

面目を一新する
縣立豐間回春園
病床も百五十床 擴張

多年の懸案であつた豐間村の縣立回春園の改築擴張工事は愈々工費七萬二千五百圓か縣會の可決を見たので明春雪解けを待つて改築工事に着手することになつたその改築擴張計畫設計は從來の坪數三千三百坪、他に營林署の敷地百六十坪を借受け合計三千四百六十坪として敷近新築した金子病室及び仁慶寮を殘しその他の建物は全部取壞して新たに監理部『診療室、藥局、事務室、會議室』看護婦寄宿舍、炊事場、レントゲン室、病棟、官舍など延建坪八百八十二坪の近代病院として恥かしくない堂々たる病院に面目を一新させ病棟を第一、第二、第三の三棟に分けて

現在の病床より五十床を增して合計百五十床を收容することになる筈である

內郷

國道改修
工事順調に進む

交通頻繁なること東北一と稱せらる內郷村御厩地內の國道六號線は石炭積載のトラックや乘用自動車一日に千台を突破その爲め路面の毀傷甚だしいので早くから改修の必要を叫ばれてゐたが內務省ではその要望に應へ今春來工費十萬圓を投じ施行中のところすでに六分通り出來上り明春三月までに完成することになつた

施工延長は千五百米、幅員十米改修によつて百米短縮され從來曲折されてゐたのが直線となるので交通上に非常な利便をもたらすことであらう

火災頻發に
平署防火對策を練る

平署では火災期に向つて各地警防團を督勵し火災損害の減少に努める一方家庭防空群にも呼かけ防火對策に努めてゐるが最近い火災原因を調査したところ取灰の不始末から來る火災が一番多く取灰の不始末は各農家の肥料用灰、製造にセメントタンクが作れず消えたものと思つた灰を物置に置きこれが原因となつてゐるもので自給肥料の對策火災豫防の兩面からセメントタンクの設置が急務であると各關係方面にセメント配給斡旋を希望してゐる

鐵道就職
依然激增
千五百を突破か

平地方における鐵道就職者の採用試驗は 四回常磐十五日はそれが相變らず志願者が多く殆ど百五十名の願書が平驛に殺倒、この分では昨年の千五百名を突破するのではないかと豫想される

優良種馬
檢查開始
全郡下に亙つて

既報、郡下における農林省の種馬統制法による優良馬檢查は三日の川前をトップに目下各所で農林省馬政局中島技手、縣小宮山農林技手、種產協會城技手により行はれてゐるが馬產郡として近年優良馬の增產に拍車をかけてゐるだけに檢查に合格する種牝馬は相當數に達するものとみられ農林省としてはこれら合格馬に對し一頭百圓以內の獎勵金を交附する筈である、尙同檢查は二十一日まで續けられる

平料理組合
新役員決定

既報、昨日總會を開いた平料理屋組合の役員は左の如く改選された

組合長比佐三郎△幹事古川淸吉、金子福藏、酒井淸、大谷傳長

無類の呑平男が
村から表彰
改悛して村を指導

山田村では近く同村大字井上、油座初太郎氏（四四）を表彰することになつた油座氏は妻子八人を抱へ無類の呑んだくれで部落民の嫌はれものであつたが、昭和十二年戰死者と戰線の勇士に申譯ないと斷然禁酒、勤勉力行して四年間の滯納稅を完納、更に井上部落負債整理組合を組織し同部落の負債を見事整理 現在山田村負債整理組合長と農事實行組長として銃後農村更生の第一線に活躍し村民の指標となつてゐる人である

ゝし十五日から直に實施した

消防部長新設

湯本町警防團では今度消防部長を新設、第一分團副團長比佐芳氏が初代部長となり比佐氏の後任には第一分團班長小井戶庄松氏が据られたがいよ〳〵火災季節、入り部下では既に內郷村及び夏井村で火があつて怪な に鑑み依警を徹底的 同 施 萬遺漏なきを期す

遂氏近く着任

蠶業取締所中支所へ若松支所の農林技手遂喜一氏が近く着任される

平市人事

◎出生
△三町目一水竹福三氏四男靖之君

◎婚姻
平市三倉四岩井久平氏（三二）と栃木縣那須郡芦野町字横岡一三三松本キクさん（二九）

ラヂオ

今晩

▼後六、〇〇 子供の時間 （新京より）ラヂオスケッチ「滿洲の冬」卒文國優級學校兒童小橋比佐一ほか

▼後六、二五 講演「軍縣の話」經濟學博士松岡孝兒

▼後七、三〇 國民歌謠一獨唱椰子の實、齊唱凱歌獨唱加藤千惠

▼後七、四〇 講演「東亞交通の現狀と將來」中川正左

▼後八、〇〇 海洋警備の勇士に贈る夕

明日の部

▼前九、三〇 子供の時間 ラヂオ日曜學校日の丸童謠音樂團ほか、一、齊唱ラヂオ日曜學校の歌 二、お話「大切な五つのこと」三、童謠ほか

▼後〇、〇五 マンドリン合奏臨時東京第一陸軍病院白衣勇士マンドリン合奏團指揮川口五助

▼後一、〇〇 吹奏樂と喇叭鼓隊（第四回吹奏樂コンクール優勝團體）學生の部、一般の部

▼後三、一〇 無落劇―有樂座より中繼―南水港

▼後二、二五 箏曲雅兒、櫻御代の祝、箏地遠藤操香、箏手遠藤操好

▼後三、五九 北米西部向海外放送、ミュージカルヴァラエティ

▼後六、〇〇 子供の時間「音樂劇」クルミ割り人形、チャイコフスキー作曲、大阪音樂劇研究會

▼後六、一五 講演「支那の西域地方」渡邊哲保

▼後七、四〇 末廣亭より―落語 新宿末廣亭より中繼 古今亭しん生、蝶化樓馬樂漫才林家染團治、小川雅子落語柳家小さん

▼後九、〇〇 管絃樂國民詩曲（第二夜）ピアノ伴奏本加すみれ子、指揮山田和男

本店主廣瀨慶之助儀病氣の處療養不相叶十二月十五日午後十一時三十分逝去仕候間此段御通知申上候
追而葬送の儀は十二月十九日午後一時茨城縣高萩町本店に於て告別式相營可申候に付弊店は十八、十九の兩日臨時休業仕候
平市田町
白菊廣瀨平支店
店員一同

戰國間諜傳
大井沢能作 山科一郎畫

第百四十回

ぬけみち（一）

そればどまでに忠五郎が心を碎いてゐるのに、女房たるものが諸らぬ嫉妬にもへて、あらぬ疑ひをかけ、その挙句訴人するなどゝ云ふことはまことに淺はかな女心、忠五郎の忠節も水の泡になつた。

忠五郎はしばし歯ぎしりして懊惱してゐたが床の上に坐つてゐた。

忠五郎は素早く身仕度を調へると有合せの金を胴卷にしつかと入れて、離れにとんで來た。もう其の時は店の耳門からとつそりとおかみに案內されてどや〳〵と十手をもつた五六人の捕方が家の中にふみ込んで來た。

「もはやこれまで、拙者が後は引き受けたによつて忠五郎どの御身をどこか安全な場所へ案內致してくれ」

金兵衛が離れからとび出そうとするのを忠五郎が引きとめて

「いゝえこゝは私の家、私が後は引き受けました」

「いや拙者が？」

押し問答してゐる時に、ハタと忠五郎が膝を打つて

「うつかり、あはてゝゐるものですから忘れてゐました。もはや大丈夫でござります」

そう云つて床の間口についてゐる押入れの戸をあけると下段の板をめくつて

「さゝこゝにぬけ道がござります とゝから隣の母屋にぬけられます私の行く通りどこまでも跟いて來て下さりませ」

そう云つて忠五郎が眞先に床の中へ這入り、こゞませて暗い拔け穴のなかにもぐり込んだ。續いて金兵衛が刀を手に身を入れた時に、母屋から一つ隔つて離れに通ふやうに設けてある廊下先にドッといふ人の足音。追手はもう間ぢかへせまつた。

「や金兵衛、もはやこれまで、に後を見せるのも卑怯のふるまい、斬り込んで行くによつてそなたち寸時も早うその間に逃げてくれ」

巨體から出やうとするのを金兵衛はあはてゝ引戾した。

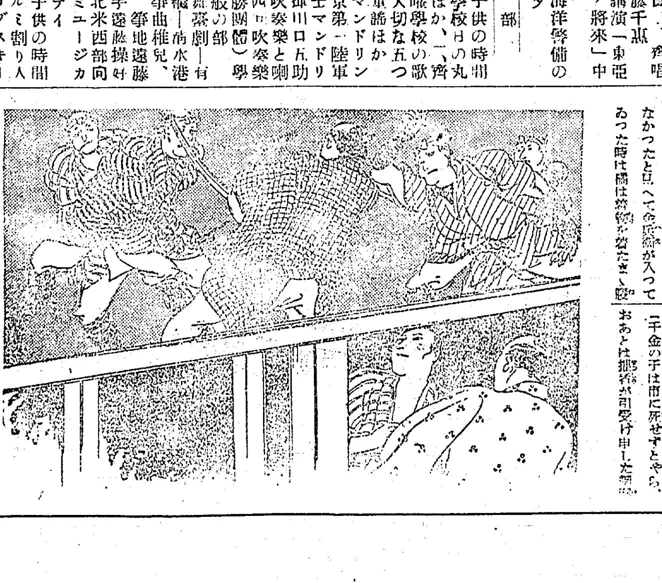
「千金の子は市に死せずとやら、おあとは拙者が引受け申した[illegible]なく急いで……」

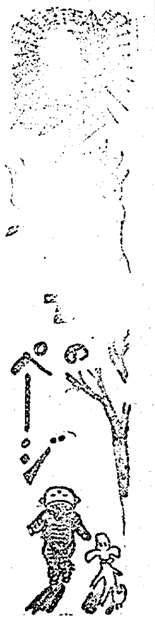
ぴつたり戸をしめ切つて行燈の火を吹消してから刀の目釘を濕し入口の方へちり〳〵と出て行つた。

隣に金兵衛の方が心配かりでしばし躊躇してゐたが、不思議の腕前を心得、又腕も利き、如何なる危い時も大丈夫切りぬける今までの彼を知つてゐるだけに、きつと今度もうまく切りぬけてくれますやうに念じ乍ら、ぬけ穴に這入つて行つた。

此のぬけみちは、先代の生きてゐる時にこの離れに囲た妾が母屋の人目を忍んで夜な夜なぬけ出て遊びに行くために作つたものらしいもので、それを長く其の後誰も知らなかつたのを忠五郎がフトしたことから見つけ、何かの時に役立つだろうとそのまゝにしておいたものだつた。

舊暗の床下をくぐると頭の上では今しもやッと云ふ合の聲、かち〳〵と打ち合ふ刀の音、その度びに床の足が止る。忠五郎が氣をもんで思はず彼女の袖を引つぱつた。





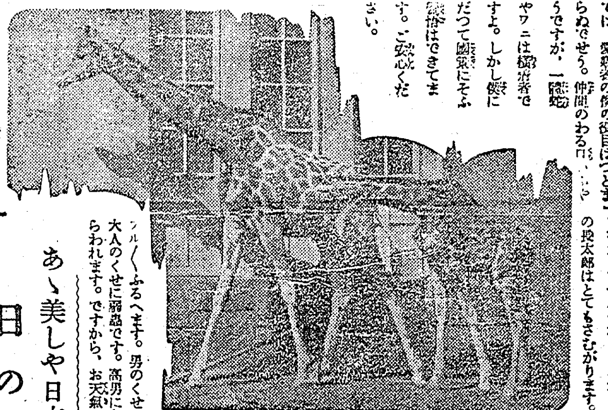
「寒くない」と震へる
南洋生れの動物達
石炭節約で動物園の非常時

上野の動物園には、暑い南洋から來た蛇や、わにのさむがり動物たちがたくさんゐます。ところが今年の石炭節約で動物のお家の暖房装置がいつもより一週間以上おくれ、スチームの温度も低くなり、さむがり動物たちにはなるべく日光浴をさせて冬をしのがせることになりました。だからさむいなんて弱音をはくと、動物たちに叱られますよ。どんな動物がこの冬をむかへるか、上野の動物園君にきいてみませう。

錦蛇　けふもをりのなかの木にまきついて首ばかりうごかしてたら日がくれちやつた。さむくなると僕はもう攝氏廿七度くらゐの温度で部屋をあたゝめてもらはなくちやたまらない。日本にすんでる青大將なんかだらしなく冬眠して何にもたべなくなるが、マレーやインドの熱帶地方からきた僕たちは冬眠なんかしない。いくら熱帶動物だからつてさむいところへほつておかれちや、自分の體温だつてだん〱さがるし、食慾もなくなるから、死んでしまふ。しかし國策にそつて僕たちもできるだけ日光浴をすることにきめた。かうやつて木にまきついてゐると、自分の身體で自分をあたゝめることもできるからつがふがいゝ。蛇に生れた甲斐があるといふもんです。だけどゝこが頭でも、どこがシッポだか自ぶんにもよくわからないできるだけがんばつてみるつもりです。

鰐　僕たちもおとなりの錦蛇クンとご同様です。水の中はいやになつたから、大きなコンクリートのヲカの上に出て陽なたぼつこする事にした。だけど僕たちの體はこんな具合なんで死ぬほどつらいときでもまるで笑つてゐるみたいなんだ。だからワニつてやつはおもしろくもなんともないといはれますが、せめてわらつてゐるやうな顔でもみてわらつてください。身體もコンクリート色だから、よくみてくれないと僕の姿はわからない。正直のところ僕はさむくなるともううごくのがまつたくいやなんです。

猿　猿なんかどんなにさむくても平氣だらうと考へるでせうが、そりやちがひます。晝間は暖くつたつてとんであるきますから割合平氣ですが、夜になるといけません。部屋を十八度くらゐにあたゝめてもらはぬと、安眠できないのですよ。猿のくせしてぜいたくだといふのですか。それならいつそ數週間ねむつて死になつてから運動しますよ。運動ばかりしてゐたんでは、愛嬌者の僕の役目はつとまらぬでせう。仲間のわる口いふやうですが、一體蛇やワニは横着者ですよ。しかし僕にだつて國策にそふ覺悟はできてます。ご安心ください。



象　寒いなアと思ふことがあつても、象と生れた以上やつぱり山のやうに泰然自若、のつそりのつそりとさもあたゝかさうにしてみなければならない。しかしおかげで日本の氣候にもだいぶなれたから、温度を低くしてもらつても眠るときワラを少し餘分に入れてもらへば今年の冬もしのげると思ふ。さむがるのは小鳥たちである。そりや、僕だつて晝もよひの日なんか、長い鼻の先に鼻水をたらすことだつてある。かぜを引くこともある。しかし皮膚はじようぶだからたいしたことはない。おなかをこはしたとき、薬をもらつたけど、古賀園長さんは、象は人間の三十倍も薬をのむといつてにがい顔をなさつた。それ以來僕は病氣になると日本の國家が損をすると思ふから、少しくらいの風邪はがまんすることにした。ハツクシヨン―

麒麟　私はキリンのお母さんです。私の子供の高男はあまりさむがりませんけれど、お父さんの長太郎はとてもさむがります。ブル〱ふるへます。男のくせに大人のくせに弱蟲です。高男にわらわれます。ですから、お天氣のよい日には、なるべく外へ出して日光浴をさせてもらふやうにすることにしましたが、どなたか寒がりやのお父さんのために、あたゝかいドテラをめぐんでくださるご親切な方はないでせうか、ねえ。

獅子　百獸の王といはれるこのわしが、寒いからといつて部屋にばかりひつこんでゐたら威嚴にもかゝはるじやらう。そりやいつものやうに、たつぷりとスチームを通してもらへば、それに越したことはない。しかしわしはこゝが我慢どころと思つとる。何ごとも我慢ぢや。寒いと思ふから寒いのぢや。そんな弱音をはいて百獸の王がつとまると思ふか。わしはもう動物の肉をやめてお魚をたべとる。石炭節約だとあれば、スチームなんかおことわりしてもえゝ、立派に國策にそつてみせようではないか、のう虎クン―

―子供笑話―

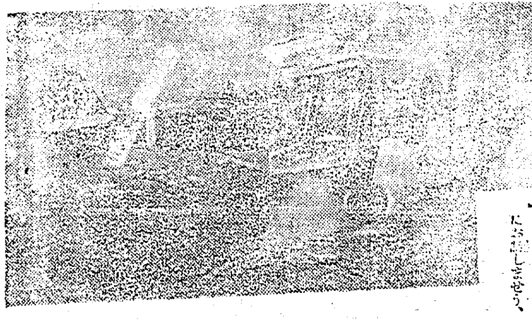
お腹がねる

坊や、ある日お母さんに向つて、「お母ちやんお腹もねんねすんの」「どうして？」「だつて兄ちやんがお腹がぐう〱いつてゐたもの」

どつちが勝つか帽子の被り比べ

これはとてもおもしろい。をかしいあそびです。顔と顔をうんとちかづけて、ちやうどその中ごろへ、ぼうしを一つのせます。この帽子はお父さまのなら一ばんよい。

よういができたら「ヨーイ、ドン」でぼうしをおとさないやうに手をつかはずに頭だけで、早くかぶりつこをするのです。負けた人は、つぎの人とかはります。



勇壯な爆撃の話

支那の大陸を縦横に翔けめぐり、世界中を驚かせながら爆撃するわが空の勇者はどんな風に活躍するか、爆撃機の勇しいはたらきについて岩本海軍中佐にお話していたゞきませう

けふは爆撃の方法について皆さんにお話しませう。

まづ飛行機の爆彈について申しませう。これは砲彈とはちがつて、外部はさほど丈夫にする必要がない、だからずつとたくさんの炸藥（目的物にぶつつかつて破裂させる火藥）をつめることができます。炸藥が多ければそれだけ爆發力も大きいわけですから砲彈よりも爆彈の方が威力があるといふ事がおわかりでせう。それから砲彈と爆彈と違つてゐるのは爆彈の尻に羽根がついてゐることです。爆彈は砲彈のやうにはげしい力で發射されたり、目にも止らぬはやさで飛んでゆくといふのではなくゆる〱と落ちてゆくものですから、空氣の抵抗や風のかげんで自然にネラヒが狂ひがちです。羽根はそれを防ぐためのもので、これがあるので彈の進む道が正しく保たれるやうになるのです。次に飛行機が爆彈をどんな風にして持つて行くかと申しますと主翼の下側にならべたり、胴體の下へつるしたりして目標の上までもつて行きます。しかしさうするとそれだけ空氣の抵抗が增して速度が減りますから、最近の大型の爆撃機は爆彈をみな胴體の中へつるしておきます。それ故外から見ただけでは爆彈をもつてゐるのかゐないのか少しもわかりません。それらの爆彈はでんきボタンでおすと自動的に落ちて行くやうになつてゐます

色々ある爆彈の落し方

爆彈の落し方

爆彈の落し方には單發投下、連續投下、一齊投下などの方法があるのです。單發投下といふのは一發だけを落す法で、連續投下といふのは一發づゝつづけて順々におとす法で、一齊投下とはあるだけの爆彈を一ぺんに落す法です。これらの方法はそのときの様子と相手の性質によつて、それぞれ使ひ分けなければなりません。一發だけで充分であると思はれる小さなものを爆撃するときは單發投下で、長い自動車の列などを爆撃するときは、連續投下が都合がよいでせうし、大きな建物にぜひ當てようとするときは一齊投下を行ひますいづれにしてもこれらの方法はでんきの作用で自由自在に行ふことができるやうになつてゐます

水平爆撃

次に爆撃をするには水平爆撃と急降下爆撃とあります飛行機で水平爆撃をする時は、まだ飛行機が目的物の上まで行かないうちに爆彈を投下しなければなりません。といふのは、爆彈にはそれまで飛行機が非常な速度で水平に飛んでゐた時の惰力といふものがついてゐるため、爆彈はそれが飛行機から離れた時の眞下よりもずつと前の方へ落ちるからなのです。では目的物よりどれ位手前で爆彈をはなすかといふことはそのときの飛行機の高さ、速さ風向風の速さ爆彈の種類の關係で一々ちがひます。また相手がじつとしてゐるものと自動車や軍艦のやうに走つてゐるものとでもちがひます。

かういふむづかしい關係をひとりでまとめてくる機械が、爆だん照準器の照準線の上は目的のものがあらはれる時、投下すると命中するやうになつてゐます

急降下爆撃

急降下爆撃といふのは、爆だんを抱いた飛行機は目的物めがけて殆ど垂直に急降下し、適當なところまで近づいたとき爆だんをはなし飛行機は再び急角度で上つて行く方法です。この方法は水平爆撃にくらべると、命中する割合はずつとよいわけですがしかし一方ではそれだけ機體や人に無理が來ることや、低く降りるために敵だんを受け易いなどの危險もともなひます。この爆撃法は何しろすばしこく、はげしい運動をしなければならないので大型の爆撃機ではやられないのです。輕い小型のものでやるのですが我が海軍では艦上攻撃機といつてゐる飛行機などが、もつぱらこの急降下爆撃を行つてはなばなしい手がらを立てゝゐます（カツトの寫眞は飛行機から急降下投下の所）

湯茶を飲む時

お湯やお茶を飲む時、ひと口のんでは「ハー」と口でいきをするくせはやめませう。自分で氣がつかないのでせうが聞きぐるしいものです。がぶりと飲まずに、靜かにすひ、口をふさいで鼻のあなでいきをするやうにすればよいのです。

あゝ美しや日本の旗
日の丸のいろ〱話

○……祝祭日にひるがへる日の丸の旗、城頭高くかゞやく勝どきの日章旗、のぼる朝日をみるやうなわが日本の國旗は、なんとけだかい、なんとりつぱな、なんと樂しい、なんと勇ましい旗でせう！

○……日の丸の旗じるしは、かなり古くから宮中の儀式に用ひられたやうですが、徳川時代のをはりごろ、鹿兒島の島津家で船じるしにつかつてから、徳川幕府でもこれを日本の船じるしとするやうになつたのが、一ばんに使はれだしたはじめです。そして、國旗として定められたのは、明治三年正月ですから、いまから七十年ばかり前になります。

キリの使ひ方

うすい、板や、竹に、きりであなをあける時きりをもみながら、早くあけやうとして、下へおしつけるやうに、力を入れますと、さつとわれてしまひます。もみ方に力をいれて、下へは、力を入れないことです。なほ、きりの先に水をつけてやりますと、いつそうわれるのをふせぎます。

時局小説

驀進

（松竹決映畫化）

士別　樹

北野　傳畫

第三十五回　傷める花（五）

中野はこの一瞬間、ぐつと詰まつた。[illegible]へ出ないでゐた、母の國子が何となく嬉はしくなかつた、すると三日前に臨時召集令狀が來たのである。來るかも知れないとは、常日頃思つてはゐたが、いざ實際に受取つてみると、何となく胸の迫る感じであつた。

そして、今迄何か[illegible]なことのやうに思ひ悩んでゐた身邊のことなどは、召集令の中に止まる何の跡もなかつた。

いゝ機會だ、と思つて彼は母親へ辞令を書きそのついでに、國子に宛て簡單な手紙を書いて出した。唯一度だけはもう一度會つて別れて行きたいと思つたからである。それ以上は、現在望むべきではなかつた。

彼は、思ひ切つて國子の家を尋ねて見やうと思つて支度をすると、急いで戸外へ出た、強い風がぎう〱と吹いて、思はず目まいを感ずるやうな寒さである。

「國子さんも來てゐて呉れればいいが―」

さう思ひながら、彼は郊外行の電車に乗つた。

[illegible]は、ちよい〱彼女の家をたづねてゐた、國子が[illegible]へ勤めるやうになつてからは家の暮し向きも次第に好くなつて最近では可なりの生活をしてゐるのが判る。

彼はそれを思ふと、自分の訪ねるのも嫌な氣が段々するのであつたが、それかと云つて、國子を訪問したいする氣には、どうしてもなれなかつた。

中野がたづねて行くと、何時でも親切よく迎へてくれるのであつたが、一切をまるで彼が世話したやうに、とつてゐるのではないかと思ふと、寂寞せずにはゐられないのであつた。

「おや、中野さん、好くこの寒い中を……」

中野の顔を見ると、國子の母親は、ニコ〱して彼を迎へた。

「えゝ、一寸お目にかゝりたいと思ひまして……」

彼はさう挨拶しながらも、國子が歸つて來てゐはしないかと思つて、注意深く四邊を見廻した。

だが歸つて來てゐるらしい氣配がなかつたので、彼は内心ガツカリしてしまつた。國子の母親は、冷たい飲物などをすゝめながら

「あなたのお蔭で、この頃はほんとに安心いたして居ります。何にしてもあれが頼りでございましてねえ」

「はア、昨日一寸お目にかゝりましたが、ずつとあちらですか」

中野は何氣ない風で聞いてみた。

「えゝ、お屋敷の方がいゝとみえて、ちつとも歸りませんのです。わたしもいゝ方ばかりの所で、わたしも安心いたして居りますの」

彼女はお世辭の言葉もないといふやうな態度で[illegible]

[illegible]した、彼はいゝ加減に上の空で返事をしてゐたが、[illegible]木老人はなかなか歸つて來なかつた。

「[illegible]は今日お暇乞ひに來たのです」

中野は思ひ切つて云つた。

「え、お暇乞ひつて？　何んですの」

國子の母は、びつくりして聞き返したが、中野の緊張した顔色をみると、何故かハツとした。

「實は召集令狀が參りまして、二十三日に入營することになつたのです」

「まアそれは〱、さうでございましたか、折角お出下さいましたのに、主人も國子も留守にいたしまして――どちらですの隊は、[illegible]」

「いゝえ、直ぐ近くですから、[illegible]んですが、何分國がいふことを聞かないんぢやないかと思つて、心配してゐるところですよ」

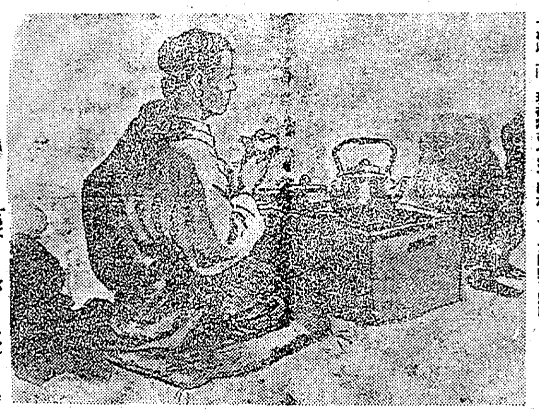
「それは何方も同じことですわ、でも日本の兵隊さんは、皆さんが強ひますから、大丈夫ですよ」

中野は話題を變へて

「國子さんは、[illegible]お出ですか」

と聞いてみた。

「えゝ、それは[illegible]」



産科　婦人科　專門

（入院隨時）

平市南町

根本醫院

【電話三四番】

エタニツトパイプ

鐵管　代用

	耐壓封度	內經	一本ノ長サ	一本ノ價額	ギボルト繼手代
D級	250	50	3m	4.72	2.90
〃	250	75	3	6.97	3.50
B級	100	100	3	7.90	6.25
〃	100	150	4	17.70	9.20

平市仲町通り

㊫ 山田文一商店

電話262番

かぜ　せき　共通散「アコー」

本品感冒、頭痛、解熱又は流行性感冒肺炎、喘息、急性、慢性急管支炎に効ける乾咳性の劇甚なる咳嗽發作に對し又子供には小兒に於ける氣管支かたる、かたる性肺炎、肺炎、肋膜炎、咽喉かたる、百日咳等の鎭咳痛解熱劑として効あり特に子供達の爲めに小兒用があります。

正價　三十錢、五十錢、一圓

平市古鍛冶町一〇（縣社石段下）

製劑發賣元　阿康藥局

責任者藥劑師　明治藥學士　阿部康雄

電話四四番

振替東京三〇〇六五番

一、産婦人科
一、外科一般
一、花柳病科

小名濱町小學校前（元土井醫院跡）

黑澤醫院

醫學士　黑澤廣

電話四五番

かまぼこ　ちくわ　天ぷら　製造

お惣菜用、さつま揚、吉原揚……

平市二丁目　電話一四一番

◎配達員至急入用委細面談

◇和文歐文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品

平市田町銀座街

東邦タイプライター代理店

東邦タイピスト養成所

森藤

電話三七〇番

振替仙臺一五〇一番

（藤森事務用器商會）

花柳病科外科

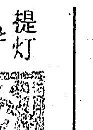
木村外科醫院

平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

吉田眼科醫院

平市紺屋町

電話八六番



提灯と國旗

◎女車掌（三名至急募集）

1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス

平市二丁目

三井タクシー

電六八五番

秋から冬物は是非！當店から

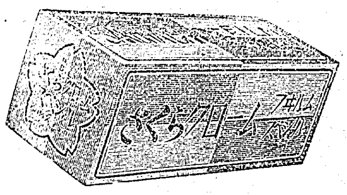
（在庫豐富）

玉屋洋品店

平田町通電話六五六番

カメラと用品

現像引受

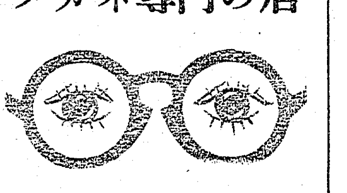


お用命は

西村屋藥局寫眞部

平2・電3

メガネ專門の店



メガネは絶對信用ある當店に先づ御相談下さい…………

玉屋

平市本町二丁目

◎帝都演藝豪華名流家來る

浪界の麗豪　廣澤虎若
ブルースのクイン 歌謡曲の名花　丸山和歌子
講談界の名人　神田伯龍師
ラヂオレコードおなじみ 小唄漫談　叶家洋月
天才少女浪曲横綱　鈴木照子孃
帝都漫才界の人氣王　春木艶子　朝日日出丸

會員券一金八十錢

會場平市公會堂

主催　磐城通信社

後援　平市役所

平市應召軍人慰問品基金造成

内科外科一般

金成醫院

金成忠義

平市鍛田町　電話三五八番